

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	95	実施計画番号	51
事務事業名	芸術文化鑑賞機会の提供		事業開始年度 昭和63年度
担当課名	スポーツ・生涯学習課		事務の種類(選択) 自治事務
根拠法令等	関連事務事業		
背景や経緯等	近年、文化芸術に対する関心や期待が高まっており、誰もが文化芸術を観賞・参加・創造することができる環境づくりと優れた文化芸術の鑑賞機会が求められている。		
事務事業の目的	文化芸術鑑賞機会を提供することにより、市民に活力を与え、心豊かな生活の実現を目指す。		
実施状況	市民合唱祭、こども劇団公演、ジュニアオーケストラ公演、ゼルコバアンサンブルコンサート、新人演奏会を実施。		

【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	50	50	50
	人件費(千円)	1,800	1,800	1,800
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	24年度実績	25年度実績	26年度計画
	502	475	557
うち一般財源	385	371	457
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他	117	104	100

【指標】

活動指標	活動指標名①	自主事業実施回数			
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
		回	6	5	5
	活動指標名②				
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
成果指標	成果指標名①	自主事業鑑賞者数			
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度
			目標値 2,400	2,050	2,050
			実績値 1,919	1,552	
			達成度(%) 80%	76%	
	成果指標名②				
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度
			目標値		
		実績値			
		達成度(%)			

十和田市事務事業評価シート

整理No	95
計画No	51

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 市民団体単体では、発表の機会を設けるのは困難であることから、活動支援についての妥当性は高いものと思われる。
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地 1 / 6 自主事業の来場者は出演者の関係者が主であり、一般の市民への周知が図られていない面があることから、広報活動等については見直しの余地がある。
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1		
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 全国的に活躍しているアーティストによるコンサートや劇団等による公演については、指定管理者が実施している。また、自主事業については事業の精査を行い、類似事業等は廃止しており、効率性は高いものと思われる。
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2		
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 文化芸術鑑賞機会の提供という観点からは公平性は保たれている。
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
			現在の適性	19 / 20	改善の余地 1 / 20	

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由
ジュニアオーケストラ十和田定期演奏会、十和田子ども劇団公演、市民合唱祭、ゼルコバアンサンブルコンサートは、第2次生涯学習推進計画の中で取り組んでいる「文化芸術鑑賞機会の提供」「文化芸術発表の場の提供」の一環であり、予算の範囲内で現状のまま継続したい。
今後の具体的な取組方策と狙う効果
現在実施している事業は継続し、さらに国、県、各団体の補助等を活用し、市民に文化芸術鑑賞機会の提供をしていきたい。